

(監督・撮影者) 古居みずえさんの
ドキュメント映画上映 & トーク

<当日のスケジュール>

14時10分上映開始 86分

**** 休憩 ****

15時50分頃から古居監督登場

17時 閉会

封鎖されたまち
封じこめられない、真実
300人以上の子どもの犠牲になった
パレスチナ・ガザ地区への攻撃
子どもたちの目線から戦争を描いたドキュメンタリー

ぼくたちは見た

—ガザ・サムニ家の子どもたち—



●ガザとは？

中東シナイ半島北東部に位置するパレスチナ自治区。面積は約363km²で東京23区の6割相当。約220万人のパレスチナ人が住み、そのうち約3分の2が難民である。イスラム組織ハマスによる自治政府内閣の成立後、イスラエル軍により、エジプトやイスラエルとの境界が封鎖され、食料品、燃料、医薬品を含む全ての物や人の出入りが制限されている。2008年末からの3週間、イスラエル軍によるガザ地区全土への大規模な空爆、地上侵攻が行われたが、この間、外国メディアはガザ地区に入ることが許されなかった。



R6 (2024) 年9月28日 (土) 14時~17時

会場：NPO としまち研 (2F) 定員 30 名

(NPO 法人都市住宅とまちづくり研究会会議室 会場 HP <http://www.tmk-web.com>)

〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町 33 番地 COMS HOUSE 2F

アクセス: JR 神田駅北口・東口から徒歩約5分、他ルート詳細は上記 HP 参照

参加費 会員 ¥1,200- 会員外 ¥1,700-

参加申し込みは9月27日 (金) までに、下記へお願いします。

参加希望者は女性建築技術者の会事務局までメールをお願いします。

◆作品解説（公式サイトより引用）

監督・撮影：古居みずえ

プロデューサー：野中章弘/竹藤佳世

編集：辻井 潔

音響設計：菊池信之 音楽：ヤスミン植月千春 宣伝：ブラウニー

協力：横浜 YMCA 対人地雷をなくす会、古居みずえドキュメンタリー映画支援の会

製作・配給：アジアプレス・インターナショナル

2011年/日本/カラー/86分/DVCAM/ステレオ ©アジアプレス・インターナショナル

<http://whatwesaw.jp>



あなたは絶対に観ながら思い悩む。子どもたちの言葉に思い感う。
結論はあなたが出すこと。でもひとつだけ念を押したい。
憎悪は連鎖する。そして愛も連鎖する。

—— 森達也 (映画監督)

人間の心には獣が住んでいる、そんなことを思わせてくれる映画である。
しかし、古居の映画は少しずつトーンが変わっていく。
子どもたちの心が変りはじめる。

—— 鎌田實 (医師・作家)

自分の環境が大変だからこそ相手を思いやれる
ということもあるんだと感ずます。

それを、この映画を見ながら一緒に学んでいきたいと思います。

—— 渡辺えり (女優・劇作家)

センセーショナルな報道の裏側で忘れられていく、子どもたち

1400人という多くの犠牲を出した、2008年から09年にかけてのイスラエル軍によるパレスチナ・ガザ地区への攻撃。本作の監督であるジャーナリスト・古居みずえは、攻撃直後に現地に入り、300人以上の子どもたちが犠牲になっていたことに大きなショックを受け取材を始める。ガザ南部の農業地帯ゼイトゥーンに住むサムニ家の子どもたちは、一族が一度に29人も殺されるという、過酷な事件を経験していた。古居みずえのカメラは、家族を失いながらも、懸命に生きる子どもたちの生活を静かに見守り、彼らの心の傷と変化を写し出す。20年以上パレスチナに通い続けてきた古居みずえだからこそ描きだせた、事件の後の“真実”。それに触れることは、瞬間的に消費される情報が飛び交う中で、「世界を理解するために知るべきことは何か？」を示してくれるだろう。



子供たちの“生きる力”“人間力”が、世界を変える！

親を亡くし、家も学校も破壊された子どもたち。しかし、ガザにはストリートチルドレンは存在しない。親を失い、兄弟を失っても、兄弟姉妹、いとこ、おじさん、おばさん、おばあさんといった大家族が彼らを引き取り、新しい家族としての“絆”を深めてゆく。封鎖されたガザでは、物資も少なく、日々の食事の支度もままならない。それでも、家族で食卓を囲み、瓦礫のあとで遊びながら、子どもたちはたくましく生きていく。子供たちの証言から垣間見られるもの、それは“生きる力”“人間力”だ。なぜ国や人種、宗教が違うのに、子供の持つ“生きる(いきようとする)力”は見る者の胸を打つのか。古居みずえは特に日本に住む同世代の子どもたちや、子を持つ親の世代に見てほしいをと切望する。きっと、同じ星に生まれた彼らの姿は、今の日本に住む私たちの心にも響き、これからの世界を変えるきっかけを作ってくれる。

◆古居みずえ監督の活動紹介(抜粋) 公式サイト及びウィキペディア(Wikipedia)より

2005年 ドキュメンタリー映画『ガーダ パレスチナの詩』公開

2005年 写真『パレスチナの女たち』で DAYS 国際フォトジャーナリズム大賞審査員特別賞受賞

2006年 第6回石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞(公共奉仕部門)を受賞

2011年 映画『ぼくたちは見た ガザ・サムニ家の子どもたち』公開

2014年 ガザ地区で取材活動を行い、アジアプレスのホームページ上で報道を行う

2016年 「飯館村の母ちゃんたち、土とともに」公開

2022年 「飯館村ベこやの母ちゃん、それぞれの選択」公開

◆著書

- 『インティファダの女たち:パレスチナ被占領地に行く』増補版(彩流社、1996年)
- 『パレスチナ 瓦礫の中の女たち』(岩波書店、2004年)
- 『ガーダ:女たちのパレスチナ』(岩波書店、2006年)
- 『ぼくたちは見た:ガザ・サムニ家の子どもたち』(彩流社、2011年)
- 『パレスチナ:戦火の中の子どもたち』(岩波書店〈岩波ブックレット〉、2015年)
- 『飯館村の母ちゃんたち:福島・女性たちの選択』(彩流社、2023年)

